

●著者インタビュー

おもしろくって、ためになる！ 服飾にまつわる名エッセイ

連載中の「進化するブランドSTORY」のコラムも好評な中野香織さん。1962年生まれでまさにTORY世代の中野さんが、日本経済新聞に寄稿した文章を集めたのが新著『着るものがない!』だ。「日経の連載は、もう6年になりま

す。これだけ続いていると、ネタを探すのも大変です。街を歩いていても、いろいろと観察していますし、キーワードを決めて、それに関連したことを徹底的に調べたりします」タイトルになっている『着るものがない!』は、たんすいっばいの服を前に思わず叫んでしまう一言。あなたにも覚えのあるセリフではないだろうか? 19世紀にアメリカの雑誌に掲載された同名の詩も紹介されているが、服はたくさんあっても、今日着る服がない。このことは、ある意味ファッションの本質をついているのかもしれない。

「たとえば、今流行のポリウレタンつぶりのバルーンスカートだって、5年前だったら、何これ?」といった感じですよ。ファッションの世界を見ていると、絶対的な正しさ、絶対的な美はないのだ、とよくわかります。私はわりと、いろんなことに少し許容範囲が広いのですが、絶対的な正義や美をふりかざす態度に対しては、抵抗感があります」

そして、英国のケンブリッジ大学で客員研究員も務めていた中野さんらしく、さまざまな文献を繙いて語られる蘊蓄を知ることができるのも楽しい。ガーターベルトを考案したのがエッフェル塔を設計したエッフェル氏であるとか、腰ばき太パンツの祖先是、1920年代のオックスフォード大学で、保守主流派が好んだ細身パンツに対抗して穿かれていた袋状パンツであるとか。会話の元になりそうなエピソードが満載だ。そして、モノクロ写真とピンク色で構成された装丁にもぜひ注目を。「本のデザインをしていたいたのは、フランスのデザイナー、ジャン・グリゾーニ氏です。ゴヤールやフラゴナールなど古い伝統を持つ老舗ブランドを、ロゴやパッケージのデザインをし直すことで復権させてきた方です。インタビューをする機会があつて、そのご縁で、この本の装丁を手がけてくださいました。7案くらい出していただいたなかから、このデザインに決まりました」

グリゾーニ氏が撮影した、裸婦像の写真の表情は、タイトルと相まって微笑みを誘う。STORYの記事からヒントを得て書かれた『復讐のドレス』という一編もあつたりして、硬い経済新聞に書かれたものとは思えないほど、ユーモラスな視点に溢れているところも、中野さんならではだ。

「この本は、ファッションナブルになるためのガイド本ではありません。文章の苦そのものを、まず堪能していただければ。そして、もしファッションを過大評価したり、軽視したりしている方がいらつしやるとしたら、『崇めるものではないし、侮るものでもない』という立場で、楽しんでいただければ、と思います」

中野香織

なかのかおり●1962年生まれ。服飾史家、コラムニスト。博識とユーモア溢れる文章が、各紙誌面を飾っている。著書に『モードの方程式』(新潮社)、『スーツの神話』(文春新書)、訳書にエイザ・ブリッグス『イングランド社会史』(共訳、筑摩書房)、ジャネット・ウォラク『シャネルスタイルと人生』(文化出版局)が。

『着るものがない!』
中野香織 著
新潮社 1,365円



New Books
All Genre



『都と京』
酒井順子 著 新潮社 1,575円
30代を迎えたころから、京都への興味がフツフツと湧いてきた酒井さん。月に1度は京都を訪れ、「千年の都」をくまなく観察。「町家カフェとスターバックスの違い」など、東京との徹底比較が楽しい。



『世界禁断愛大全』
桐生操 著 文藝春秋 1,800円
同性愛、ロリコン、近親相姦など、「禁断の愛」に身を投じたなら、人はどう変わっていくのか? 金髪美青年に恋した文豪のエピソードから、ジョン・ベネちゃん事件まで。官能と倒錯の世界を一堂に。



『12星座の恋物語』
角田光代 鏡リュウジ 著
新潮社 1,470円
蠍座の女性は、なぜミステリアスなの? 双子座の彼の本命は? 12星座それぞれの男女を主人公に角田さんが綴った短編小説を、占星術研究家の鏡さんが解説。小説と占いダブルで楽しめる一冊。



『ビームスの奇跡』
山口淳 著 世界文化社 1,365円
お馴染みのセレクトショップBEAMS。創業30周年を迎え、ますます好調なそのショップ作りや魅力的なラインナップの秘密を探る。設楽社長をはじめスタッフへのインタビューも興味津々。

